工業部会通信

相模原商工会議所
工業部会発行
編集
かながわ経済新聞社
代表：千葉龍太
〒252-0239
相模原市中央区中央3-12-3
TEL：042（851）2021
プリントしてご自由にお読み下さい。

かながわ経済新聞 KANAKEI

環境・新エネルギー産業分野

参入の可能性探る

6月にセミナー開催

工業部会GETプロジェクト（早川正彦委員長＝早川銘板製作所社長）は6月19日、「環境・新エネルギー産業の成長と中小企業の新たなビジネスチャンス」と題したセミナーを、市立産業会館で開催する。同分野に精通した日本政策金融公庫総合研究所の海上泰生主席研究員を招き、地域中小企業が参入できる可能性について検証する。

低炭素社会構築への関心が世界的にも高まっており、国内でも電力供給の制約などを背景に、太陽電池、風力発電機、水素エネルギーなどの「環境・新エネルギー産業」が注目を集めている。

経済産業省によると、2020年には世界規模でおよそ86兆円もの市場になることが予想されており、産業分野を技術的に支えている中小企業の活躍にも大きな期待が高まっている。

今回のセミナーでは、環境・新エネルギー産業分野に中小企業が事業進出していくためには、「企業戦略上何がポイントとなるのか」や「どのような点に留意するべきなのか」を事例を交え解説する。

午後6時半～同8時まで。参加無料。申し込み、問い合わせは産業振興課・高井（042・7553・8136）まで。

「相模原派遣ドットコム」人手不足解消に一役

ミヨシロジ

工場での人手不足解消につなげようと、工業部会の会員企業、ミヨシ・ロジスティックス（相模原市緑区下九沢、042・779・6619）は、地域密着型の登録サイト「相模原派遣ドットコム」の本格運用を始めた。

人材派遣から工場作業の請け負いまで、同サイト内で依頼できる一方、地元で仕事を探している人も登録できる「双方向型」が特徴。相模原をはじめ、綾瀬、横浜、川崎など製造業が多数立地するエリアに特化している。

「東京五輪を控え、企業側の人手不足は進み、派遣へのニーズは非常に高くなっています。そうした中で“地元企業には地元の人材を見つけてほしい”というコンセプトで立ち上げました」と吉田英訓社長。

サイトでは自動車部品のピッキング、エンジン組み立てといった工場内作業から内職、物流関係まで、幅広い分野での人材派遣などを依頼できる。これに対し、働きたい人もサイト内で登録できる。

未経験でも働きたい意欲がある人を対象に、まず人材登録をしてもらい、ミヨシ・ロジスティックスの本社で面談。職種や勤務時間帯、期間など、本人の希望を聞く。そこから、同社が企業側とのマッチングを行い、就業が決まる。

就業前には、同社の資格保有者が講師となり、就業予定者にビジネスマナー研修などを実施。勤務が始まる。

受け入れる企業に安心感を持ってもらうため、人材の「教育証明書」も発行する。すぐに働けない人でも、登録だけしておくことも可能だ。

「今後、同様の地域密着型サイトを各地で開設していきたいと考えています」と、吉田社長は話している。

（かながわ経済新聞）

サイトについて説明する吉田社長

「縦型旋盤」で差別化

清水原コーポが導入

工業部会の会員企業で金属加工を手掛ける、清水原コーポレーション（相模原市緑区田名、042・761・9050）は、「縦型旋盤」を計2台導入、稼働させている。

自動車部品、建機部品などの加工を主力としており、その中でもブレーキに使用する「ドラム」、車輪を構成する部品「ハブ」などを生産する。

加工する材料は鋳物、鉄などで、「薄くて大きいものが得意です」と、山口友彦専務は自信を示す。

金属加工の世界では、はん用旋盤からNC旋盤へと時代が変わっているが、昔ながらの汎用旋盤の技術を活かした製品加工を進めている。

そんな同社の強みとなっているのが「縦型旋盤」を駆使した加工技術。縦型は横型と比べると、加工したい対象物を置くだけなので、移動する手間が省ける。重かったり、大きかったりする部品加工に向く。同設備を導入している町工場は地域でも珍しいという。

直径500ミリ、重さ60キロの鋳物を加工することもザラとしている。「ドラムやハブ以外にも、当社の技術が活かせる分野は多くあるはずです。それを開拓していきたいです」（山口専務）と意欲的だ。

（かながわ経済新聞）

今後の展開について話す山口専務

リガルジョイント CSR報告書発行

継ぎ手や流量計などを製造販売する、工業部会会員企業のリガルジョイント（相模原市南区、042・756・7567）はこのほど、「CSR報告書」を発行した。

CSR（企業の社会的責任）に関する報告書を出す地域の中小企業は地域では珍しいといえる。しかも、同社の社員が手掛けたのではなく、武蔵大学の学生たちが、3カ月間取材を重ねて作成した。

同大学の「3学部横断型ゼミナール・プロジェクト」の授業の一環としている。

計38ページで構成。「社員」「共生」「環境」の3つの視点からリガルジョイントのCSR活動をまとめた。いずれも学生、第三者の視点で紹介している。

身近なステークホルダー（利害関係者）である「社員」に対する同社の取り組みは、社員の有給取得率などを開示。現場で活躍する社員のインタビューなども盛り込んでいる。

「共生」の項目では、新技術や商品の紹介をはじめとする企業活動、さらには地域交流活動などを記載している。

「環境」では、本社における温暖化防止の取り組み、二酸化炭素（CO2）削減効果、同社の得意としているオゾン関連技術などを扱っている。

同社の稲場純社長は「大変よいものに仕上がっています。従業員だけでなく、取引先にも配っていきたいと思います。当社の会社案内と同等に考えています」と話している。

（記事提供・かながわ経済新聞）

新規会員募集中

近未来技術研究会

相模原商工会議所工業部会